

平成 26 年度
事業報告書

学校法人 関西看護医療大学

目 次

	頁
はじめに.....	2
I 法人の概要	3
1. 建学の精神	
2. 教育方針	
3. 沿革	
4. 設置大学・学部・学科	
5. 学生数の状況	
6. 役員の概要	
7. 評議員の概要	
8. 教職員の概要	
9. 組織図	
10. 校地・校舎	
II 事業の概要	8
1. 概要	
2. 行った主な事業	
3. 学事記録	
III 財務の状況	10

はじめに

本学は、兵庫県初の私立4年制看護大学として、平成18年4月に特定医療法人社団「順心会」と淡路市との公私協力によって開学いたしました。

本学は、看護学の高等教育機関として、看護を必要としている人々に対して、ヒューマンケアの精神に貫かれた専門的な看護を実践できる人材育成を目指しております。

今日、我が国は世界に類を見ない少子高齢社会を迎えております。また、生活習慣に起因する疾病が国民の健康に大きな脅威を与えていることも事実となっております。これらに対応すべく医療技術も急速に進歩・発展し、それを受けて看護の領域においても、このような社会や疾病の変化に対応するため、より一層、専門的知識・技術を習得した看護専門職の育成が求められております。

本学は、「一隅を照らす」という建学の精神のもとに、「生命に対しての熱い思い」、「温かな人間性と豊かな見識」、「確固たる人生観・人間観の保持」、「看護を通しての貢献」という四つ考え方を基調とし、高等教育を取り巻く新たな状況に対して臨機な対応を図りながら、教育・研究を展開しております。

高い看護能力は勿論の事、人と生命に対して尊厳の眼差しを向けられる人間性豊かな看護専門職の育成に努めております。特に、「ティーチング」、「カウンセリング」、「コーチング」、「チームコンサルティング」の四つの要素をプロ・コミュニケーションと捉え、患者さまの精神状態・健康状態・タイミングによって使い分け、コミュニケーションを図ります。このコミュニケーション能力を身に付けるためには、ユニフィケーション、いわゆる「教育・研究」と「臨床現場」の協働、つまり大学と医療施設が一体となった運営が必要であり、本学にはこの環境があります。このような本学の教育環境の特長を活かしながら、時代の流れと社会環境の変化に的確に対応した「実学」を、より一層充実させ、地域社会の中核として、そのニーズに応えることのできる有為な人材の育成に努めてまいり所存でございます。

本学の事業は、申すまでもなく皆様方のご理解とご協力により達成されるものであり、これからも、「一隅を照らす」という理念を本学の精神的バックボーンとして教育に邁進する所存でございますので、一層のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

学校法人関西看護医療大学

理事長 徳 永 洋 一

平成26年度事業報告書

I 法人の概要

1. 建学の精神

本学の教育目標は心豊かな看護師を養成することです。そのため、本学は「一隅を照らす」という理念を建学の精神としています。「一隅を照らす」とは、自分の一隅、つまり、みずからの持ち場を最高のものと信じてそこで誠心誠意を尽くす姿勢です。ましてや高齢化社会を迎えたいま、看護という一隅が実に大切な一隅（ホットコーナー）です。この仕事を通じて喜びと誇りと使命感をもって「一隅を照らす」気持ちを持ち続けることで、自然と患者さまと互いに笑顔で向き合える心豊かな看護師になれると考えています。

2. 教育方針

- (1) 倫理教育を基盤として、常に高い見識をもって保健・医療・福祉に携われるようにします。また、社会的要請を正確かつ冷静に受け止め、高齢社会で鮮明になりつつある看護の新分野における専門化、細分化に即応できる知識と技術を有した看護専門職を育成します。
- (2) 看護される側と一緒に疾病や負傷に向き合い、人間としてお互いに信頼し合って、求められるケアを提供できるように、その能力や経験などを共有しあい、理論と実践技術として確立できるように教育し、看護専門職としての自覚を持ち、自立して理解、判断し、自己決定・自己解決できるように育成します。
- (3) QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上を目的に、疾病になってからの看護のみならず、疾病予防や保健啓発活動を通してひとりひとりの健康保持までカバーするヘルス・プロモーション活動のリーダー的存在として、また、看護を受ける側に立った活動をするためのコーディネーション能力・リーダーシップ能力を発揮できるように教育します。
- (4) 近年、医療・看護・福祉技術のアジア地域への支援を始めとする国際的な貢献・対応が求められています。これに応えるため国際的なコミュニケーション能力を身につけた人材を育成します。
- (5) 地元の団体や施設、住民と直結し、最新の保健医療情報や看護技術等を提供する等、地域における保健・医療・福祉活動に積極的に参加させます。また、リカレント教育や講演・研修活動を通して保健・医療・福祉のサービス水準の向上にも貢献します。このような広範な教育実践により、地域に密着した看護の重要性を体得した人材を育成します。

3. 沿革

- 平成14年11月 順心会大学設置準備室を津名町に開所した。
- 平成16年 5月 財団法人順心会関西看護医療大学設立準備財団が設立。
- 平成17年 3月 兵庫県立津名高等学校跡地及び校舎を津名町より寄附を受けた。
- 平成17年 4月 順心会看護医療大学建設工事・起工式が挙行された。
- 平成17年12月 学校法人順心会看護医療大学が設立された。
順心会看護医療大学の設置が認可された。
校舎が竣工した。
- 平成18年 4月 順心会看護医療大学が開学した。
看護学部看護学科を設置した。
- 平成20年 4月 大学の名称を「関西看護医療大学」に変更した。
- 平成25年 4月 関西看護医療大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）
を設置した。

4. 設置大学・大学院・学部等

- 関西看護医療大学大学院 看護学研究科 看護学専攻
関西看護医療大学 看護学部 看護学科

5. 学生数の状況

(1) 大学院修士課程

[平成26年5月1日現在]

研究科	専攻	入学定員	収容定員	現員数	摘要
看護学研究科	看護学専攻	7人	14人	13人	

(2) 学部

[平成26年5月1日現在]

学部	学科	入学定員	収容定員	現員数	摘要
看護学部	看護学科	80人	320人	374人	

6. 役員の概要

(1) 理事（7名）・監事（2名）

[平成26年5月1日現在]

職名	氏名	常勤・非常勤	摘要
理事長	徳永 洋一	常勤	平成17年12月7日理事就任 平成18年10月24日理事長就任
理事	江川 隆子	常勤	平成22年4月1日理事就任 (関西看護医療大学長)
理事	川口 哲郎	非常勤	平成19年4月1日理事就任 (関西看護医療大学教授)
理事	飯田 和郎	非常勤	平成23年11月1日理事就任 (学校法人堀井学園 参与)
理事	門 康彦	非常勤	平成25年12月7日理事就任 (淡路市長)
理事	中谷 正史	非常勤	平成25年12月7日理事就任 (医療法人社団順心会順心淡路病院院長)
理事	柴田 信幸	非常勤	平成25年12月7日理事就任 (ダイキン工業株式会社社友)
監事	青木 峰男	非常勤	平成17年12月7日監事就任
監事	江川 正純	非常勤	平成17年12月7日監事就任

7. 評議員の概要

[平成 26 年 5 月 1 日現在]

氏 名	主な現職等
徳永 洋一	学校法人関西看護医療大学理事長
江川 隆子	関西看護医療大学長
山本 道雄	関西看護医療大学教授 図書館長
門 康彦	淡路市長
飯田 和郎	学校法人堀井学園 参与
横畑 勲	未来エネルギー研究協会事務局長
川口 哲郎	関西看護医療大学教授
本名 孝至	伊弉諾神宮宮司
佐藤 順哉	石澤・神・佐藤法律事務所 弁護士
明石 善久	淡路市医師前会長 明石医院院長
小平 京子	関西看護医療大学教授 学科長
柏 瀬 宏	
清水久美子	医療法人社団順心会順心淡路病院副院長
松澤 佑次	一般財団法人住友病院 院長

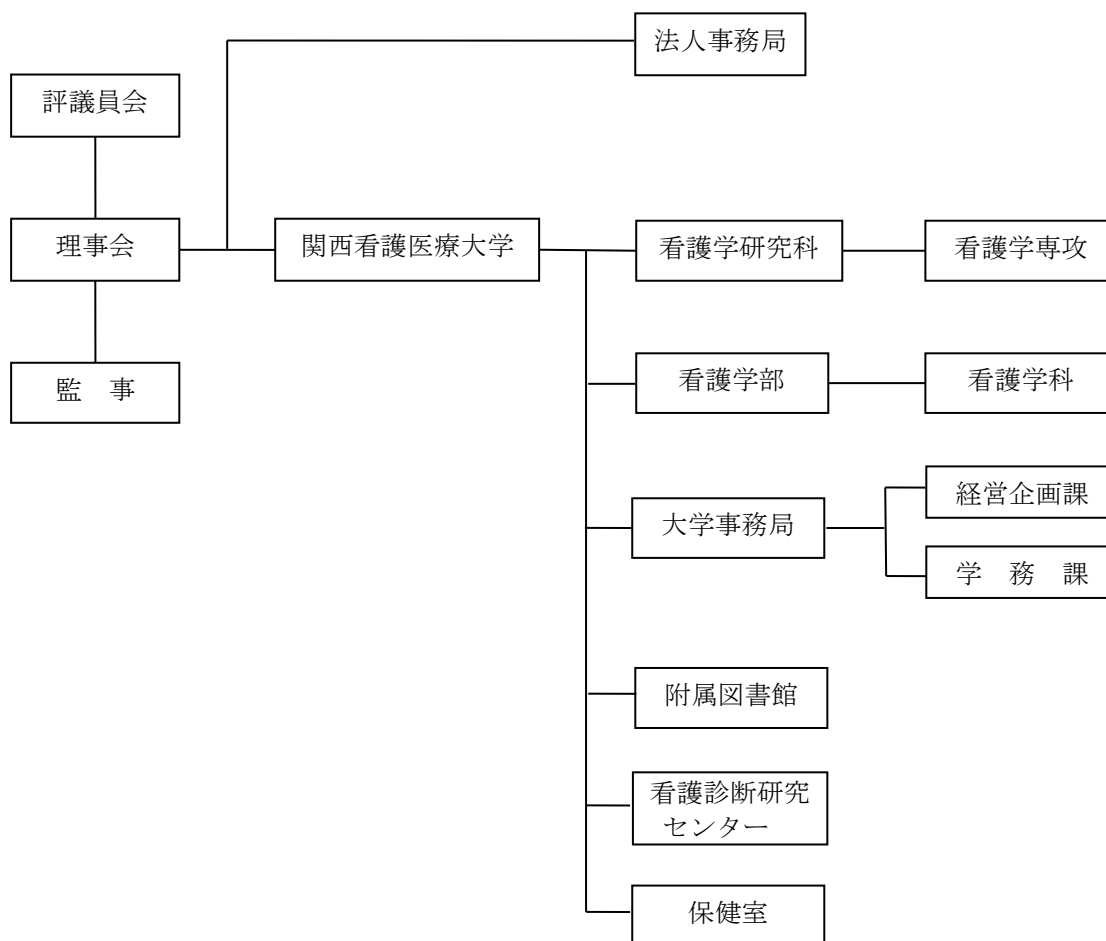
8. 教職員の概要

[平成 26 年 5 月 1 日現在]

区 分		関西看護医療大学	計
教 員	本 務	36 人	36 人
	兼 務	65 人	65 人
職 員	本 務	17 人(2人)	17 人(2人)
	兼 務	7 人	7 人

※ () 内は、他機関からの派遣職員を内数で示す。

9. 組織図



10. 校地・校舎

校地面積合計	19,010.00 m ²
学校建物延床面積	12,813.14 m ²
校舎延床面積	10,709.62 m ²
体育館延床面積	1,561.50 m ²
学生会館他延床面積	542.02 m ²

II 事業の概要

1. 概要

開学 9 年目となり、大学院看護学研究科が完成年度を迎えた。また、例年のとおり、教員組織の整備、学生の教育・支援、地域への貢献、国際交流、教育研究環境の整備等の諸事業を実施した。特に、真に社会から求められる看護専門職者を育成していくため、新しい教育理念を創設し、大学の教育カリキュラムを刷新した。また、地域に密着した大学づくりを目指していくため、淡路市との連携強化(協定締結)を図った。

法人全体の財務状況については、平成 25 年度の卒業生数より平成 26 年度入学生数が少なかったことと退学者及び除籍者があったこと等により学納金収入が前年度比 31 百万円減少し、598 百万円となった。また、平成 26 年度に基本金組入額が 31 百万円発生したこと等もあり、消費収入は前年度に比べて 75 百万円減少し、685 百万円となった。

一方で、教職員数の増加等で人件費が前年度に比べて 20 百万円増加したこと等により、消費支出が 9 百万円増加し、725 百万円となった。

その結果、平成 25 年度は当年度消費収入超過額が 44 百万円だったのに対し、平成 26 年度は当年度消費支出超過額が 40 百万円となった。

2. 行った主な事業

- (1) 学士課程教育の充実を図るため、新たに設定された教育理念・教育方針に基づき、新カリキュラムを策定した。
- (2) 県立津名高校及び県立淡路高校との教育連携を深化させるとともに、淡路島内の他の高校との教育連携をも視野に入れた体制をさらに推進した。
- (3) 優秀な学生を確保するため、オープンキャンパスを 6 回実施した。
- (4) 入学定員(90 人)・収容定員(360 人)の増加に係る学則変更が認可された。
- (5) 退職教員の補充と教育体制の整備充実を図るため、専任教員 5 名(講師 2 名、助教 1 名、助手 2 名)を新たに採用した。
- (6) 広く地域の医療施設等で働く看護師の資質向上を図るため、看護診断セミナーを 2 回開催し、フットケア研修も 3 回実施した。また、地域住民対象の公開講座を 2 回実施した。
- (7) 淡路市との包括的な連携の下、幅広い分野において公私がお互いに協力し、もって、地域社会の健全な発展に寄与することを目的に「包括的連携協力に関する協定書」を締結した。
- (8) モンゴル国立医科科学大学との学術交流協定を更新した。
- (9) 淡路島内の三市長との懇話会(K K I 懇話会)を開催した。
- (10) 今後の本学の目指す方向性等を示す中長期計画を検討するため、中長期計画策定ワーキンググループを設置し、「学校法人関西看護医療大学中長期計画(案)」を策定した。
- (11) 創立 10 周年(平成 27 年度)の記念事業の実施に向けて、記念事業募金活動を開始した。

3. 学事記録

4月	●入学式 ●ガイダンス ●前期授業開始 ●定期健康診断
5月	●奨学金出願受付
6月	●オープンキャンパス ●防災訓練
7月	●前期試験 ●オープンキャンパス
8月	●夏季休業 ●オープンキャンパス
9月	●後援会総会 ●オープンキャンパス ●大学院第Ⅰ期入学試験
10月	●後期授業開始 ●大学祭
11月	●推薦入学試験（指定校・公募制） ●大学院第Ⅱ期入学試験
12月	●冬季休業
1月	●後期試験 ●本学を会場とした入試センター試験の実施
2月	●一般入学試験（前期） ●保健師・看護師・助産師国家試験 ●センター試験利用入学試験
3月	●学位記授与式 ●一般入学試験（後期） ●センター試験利用入学試験 ●大学院第Ⅲ期入学試験

Ⅲ 財務の状況(平成26年度決算の状況)

資金収支計算書・消費収支計算書及び貸借対照表の概要は次のとおりです。

1. 資金収支計算書

資金収支計算書

平成26年4月1日から
平成27年3月31日まで

(単位:円)

収入の部			
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
学生生徒等納付金収入	598,650,000	598,150,000	500,000
手数料収入	10,010,000	10,605,840	△595,840
寄付金収入	12,500,000	13,719,600	△1,219,600
補助金収入	74,000,000	74,540,564	△540,564
資産運用収入	300,000	256,471	43,529
事業収入	4,800,000	5,145,902	△345,902
雑収入	3,000,000	14,422,363	△11,422,363
前受金収入	0	162,640,000	△162,640,000
その他の収入	0	17,115,715	△17,115,715
資金収入調整勘定	0	△152,077,074	152,077,074
前年度繰越支払資金	694,694,588	694,690,588	
収入の部合計	1,397,950,588	1,439,150,905	△41,200,317
支出の部			
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
人件費支出	438,800,000	448,281,657	△9,481,657
教育研究経費支出	125,150,000	115,713,099	9,436,901
管理経費支出	85,204,000	80,199,431	5,004,569
設備関係支出	12,155,000	16,209,944	△4,054,944
その他の支出	12,700,000	53,741,626	△41,041,626
資金支出調整勘定	0	△39,072,725	39,072,725
次年度繰越支払資金	0	△1,502,783	1,502,783
支出の部合計	1,397,950,588	1,439,150,905	△41,200,317

2. 消費収支計算書

消費収支計算書平成26年4月1日から
平成27年3月31日まで

(単位:円)

消費収入の部			
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
学生生徒等納付金	598,650,000	598,150,000	500,000
手数料	10,010,000	10,605,840	△595,840
寄付金	12,500,000	13,719,600	△1,219,600
補助金	74,000,000	74,540,564	△540,564
資産運用収入	300,000	256,471	43,529
事業収入	4,800,000	5,145,902	△345,902
雑収入	3,000,000	14,422,363	△11,422,363
帰属収入合計	703,260,000	716,840,740	△13,580,740
基本金組入額合計	△24,000,000	△31,544,126	7,544,126
消費収入の部合計	679,260,000	685,296,614	△6,036,614
消費支出の部			
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
人件費	441,800,000	450,874,137	△9,074,137
教育研究経費	197,150,000	187,999,828	9,150,172
管理経費	90,204,000	85,211,896	4,992,104
徴収不能額	0	1,350,000	△1,350,000
消費支出の部合計	729,154,000	725,435,861	3,718,139
当年度消費支出超過額	49,894,000	40,139,247	
前年度繰越消費支出超過額	32,945,201	32,945,201	
翌年度繰越消費支出超過額	82,839,201	73,084,448	

3. 貸借対照表

貸借対照表

平成27年3月31日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	2,012,491,494	2,073,580,744	△61,089,250
有形固定資産	2,012,491,494	2,073,580,744	△61,089,250
その他の固定資産	0	0	0
流動資産	778,474,739	703,752,773	74,721,966
資産の部合計	2,790,966,233	2,777,333,517	13,632,716
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	35,761,341	45,232,836	△9,471,495
流動負債	228,886,566	197,187,234	31,699,332
負債の部合計	264,647,907	242,420,070	22,227,837
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	2,555,957,220	2,524,413,094	31,544,126
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	0	0	0
第4号基本金	43,445,554	43,445,554	0
基本金の部合計	2,599,402,774	2,567,858,648	31,544,126
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	73,084,448	32,945,201	△40,139,247
消費収支差額の部合計	△73,084,448	△32,945,201	△40,139,247
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	2,790,966,233	2,777,333,517	13,632,716

注 記

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

徴収不能引当金

未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

退職給与引当金

退職金の支給に備えるため、期末要支給額 29,268,000 円を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額の 100%を計上している。

(2) その他の重要な会計方針

なし

2. 重要な会計方針の変更等

なし

3. 減価償却額の累計額の合計額 564,277,988 円

4. 徴収不能引当金の合計額 なし

5. 担保に供されている資産の種類及び数 なし

6. 翌会計年度以後の会計年度において基本金への繰入れを行うこととなる金額
20,812,262 円

7. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 純額で表示した補助活動に係る収支

純額で表示した補助活動に係る収支の相殺した科目及び金額は次のとおりである。

支 出	金 額	収 入	金 額
管理経費支出 (補助活動支出)	29,998,236	補助活動収入 (売上高)	18,365,500
計	29,998,236	計	18,365,500
純 額			11,632,736